赤十字病院で看護職員として働くことの魅力
～東日本大震災救援活動に参加した看護職員へのアンケートから見えてくるもの～

看護部　植松　知子　下山　美穂
原　弘子　田上　全子
武田　恵子

Ⅰ．はじめに

昨今，他施設でも災害救援活動が実施されるようになり，赤十字看護とは何か，赤十字病院で看護職員として働くことの魅力を示すことの重要性を感じている．そうしたなか，A赤十字病院からも東日本大震災の救援活動に救護員を派遣した．活動を終えて戻ってきた彼らからは，達成感や満足感が滲み出ていた．彼らは，日常の臨床現場を離れ，救援活動するなかで改めて赤十字や赤十字看護を感じたのではないだろうか．

そこで，赤十字病院で看護職員として働くことの魅力を表現していくことを目的に，今回の救援活動に参加した看護職員を対象にアンケートを実施したので結果を報告する．

Ⅱ．研究方法

1. 対象と方法

A赤十字病院から東日本大震災の救援活動に参加した看護職員全員を対象に，自由記述を含むアンケートを実施（H23年10月10日～12月27日）．アンケートは，プレテストを繰り返し，救援活動に参加する前と後での赤十字や赤十字看護に対する意識などを問うものを独自に作成した．

2. 倫理的配慮

A赤十字病院看護部倫理委員会の審査を受け承認を得ている．その後，対象者には，研究の意義と方法･研究参加の自由意思･プライバシーの保護について文書と口頭にて説明し，同意を得て実施している．

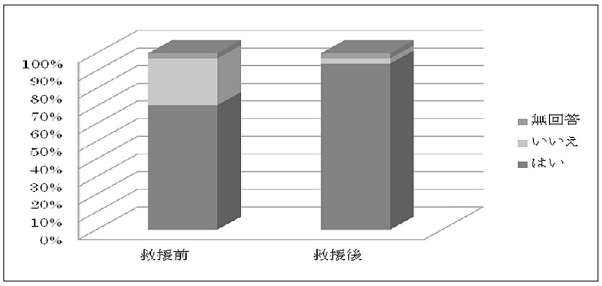
3. 分析方法

はい･いいえの回答は質問項目ごとに整理し，自由記述の項目に関してはその内容を解釈し整理した．

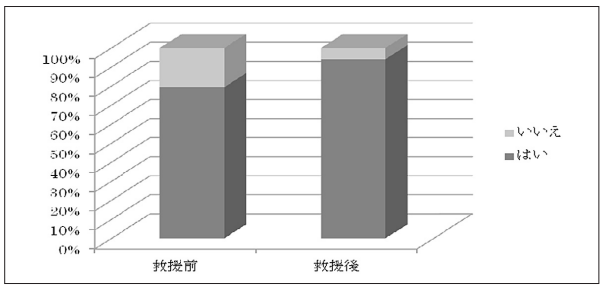
Ⅲ．結　果

1. 対象者：36名中34名から回答（回収率97％）
2. 赤十字に対する意識

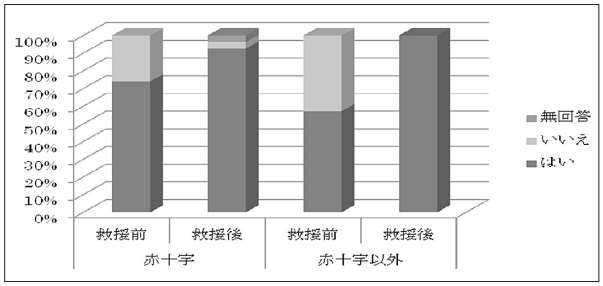
①赤十字の一員と感じる事があったか



②赤十字看護師でよかったと思ったか



③②の結果を看護基礎教育別の比較



①②と答えた理由

救援前	式典参加　日赤事業　募金　学会　救急法　赤十字キャリアラダー　赤十字の授業　救護派遣　救護訓練参加 救護活動　赤十字の研修　院外活動が盛ん　研修の機会がある　救護体験　救護に行けたこと 看護師教育に伝統がある　救護や訓練の経験　救護活動が盛ん 患者に対する意識が高い　質が高い 組織が大きい　色々な活動に参加できる　赤十字看護師と看護を語り合うと楽しい　連携が取れる　他施設との交流　赤十字関連のニュース 知識の習得 同じ価値観　同志がいる安心感　理念　他施設の看護師と知り合える　他の赤十字から良い影響を受けられる
✚	
救援後	共通の理念 理念　理念がしっかりしている　人道　博愛 共同宿舎　共通の道具　救護服　赤十字ユニフォーム 赤十字マーク　救護服がいい　大勢参加　申し送り　引き継ぎ　話し合い　スムーズな申し送り　同じ志　すぐにうちとける　仲間を感じた　同じ目的意識　同じレベル 団結　使命　仲間意識　同じ感覚　志気が高い 連携 一体感 まとまり 連帯感　やさしい　人に尽くす 赤十字の地位　大きな組織　指揮命令系統 ネットワーク　ネームバリュー 体制が整備 救護に行けた　すぐに行けた　救護に行きやすい　救護派遣のライン　現地の受け入れ 救護への考え方　研修が役に立った　被災者からの声かけ　被災者からの声かけ　被災者が安心　赤十字＝安心

以上のように，救援活動に参加する前よりも参加後に赤十字の一員であることを感じ，赤十字の看護師で良かったと感じている人がほとんどであった．それは，赤十字での基礎教育の有無には関係なかった．赤十字や赤十字看護に対する意識は，参加前後で比較すると，参加後は連帯感や志気が高いなど可視化できないものが多く追加されていた．

3. 救援活動と臨床看護に違い

あった（17名），なかった（16名），どちらともいえない（1名）．あった人も，なかった人も，環境や物品が違うだけで根本的には同じと答えている人が大部分であった．診療介助や看護アセスメントについては，ほぼ全員が違いはなかったと回答している．

Ⅳ．考　察

対象者のほとんどが，救援活動を通して感じた赤十字や赤十字看護を改めて振り返ることで，可視化することが難しい赤十字の組織力や赤十字看護の根底にある思いや意識に気づいていた．それは，普段は意識することが少ない人道を基盤とした組織力と，赤十字看護を支えている看護職員一人一人の人道の具現化であった．こうした気づきが，赤十字病院で看護職員として働くことの魅力ではないだろうか．そして，赤十字の看護職員たちは，救援活動という日常とは違う環境のなかでも，日頃の看護活動を活かし，スムーズな活動が行えていた．その活動を振り返るなかで，看護実践の内容だけでなく，その実践力の質を支えている看護職員としての姿勢や思いなど赤十字看護の土台に気づいていた．今回の結果では，赤十字での基礎教育の有無に関係なく，ほとんどの看護職員が赤十字看護を支えている土台を感じていた．看護基礎教育を赤十字施設以外で受けた看護職員が増えてきているが，赤十字という環境の中で看護実践を継続していくことで，赤十字看護の土台が知らず知らずに身についていたと言える．赤十字看護を仲間と共有することを大切にし，語りが途絶えない職場環境の継続と活性化が大切である．赤十字看護を互いに育み，伝えていくためには，実践を媒介にしながら，感性や気づきの能力を養い鍛えていくことが必要である．

Ⅴ．結　論

赤十字病院で看護職員として働くことの魅力は，救援活動を経験し，振り返ることで，具体的に言語化され表現された．その魅力は，赤十字という共通理念を持つ組織力と共通文化の中で育まれた赤十字看護の土台となる一人一人の人道の具現化である．

この魅力をアピールし，人道を具現化した看護を実践できる人材育成につなげたい．これまで意識することの少なかった，赤十字の組織力や赤十字看護の土台を意識した継続教育の見直しと，ネットワークを生かした教育システムの整備が求められている．